

平成28年度第2回千葉県県民活動推進懇談会における委員の主な意見

	主な意見
千葉県県民活動推進計画平成28年度実施事業の中間報告について	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティアをやりたいという気持ちはあるが、役割を押しつけられたり、責任を取らされるのではないかと、今、引いている人たちに何とか関わってもらうためには、自分たちの身の回りにいる人たちに一人一人に声をかけるリクルート活動が大事。 ○ 若い方たちが地域活動に参画する時には、自分が住んでいる地域でどんなことができるのかというプログラムを行う予定。その方が主体性、やる気が出る。中学生・高校生は、住んでいる所から遠い所のプログラムに参加できないので、各市町村単位でいろいろなプログラムができればいい。 ○ もっと高校生が地域の資源としていろいろな事業に参加することによって、学校側の信頼性も上がり、若い方が参加するということで各種事業が盛り上がる。 ○ 疲弊しつつある地域コミュニティを打開するキーマンとしては、小学生、中学生といった子どもたちが将来大きくなるまでの間、地域に対する愛情を育むことによって、地域を守っているのは自分たちだという概念を作っていくことが重要。その中で、ボランティアも地域愛をそのまま行動に移すような。皆で地域で何かしようということが、正に県民活動の推進の意義性になる。 ○ 若い世代を主軸に置くということで、年代層別の参加数、若しくは参加割合の把握が可能であれば、統計的にまとめて、将来のターゲットや、若者が何に関心を持つのか分析ができるのではないかと。 ○ 県民活動を広め、推進していく時に大事なポイントは、どうやって面的に広がっていくか、内容を高め、進化させていくかということが必要。支援を受けた人が活動を広げたり、次の段階に進んでいけるような支援でないと深まりも広がりもしていけない。事後の活動の広がりも、配慮して支援していければいい。 ○ ボランティアやNPOの活動を、先生用にこのようにアクティブラーニングに繋がる、カリキュラムのここを高めるということをサジェスションすると、先生たちは本業の部分に役立つとか、大学生だったら就職活動にこうやって高まっていくというようになっていくと、受け入れの幅が広がるのではないかと。 ○ 県が主体となって、各地域のサポートセンターで講座を開催していて、県内まんべんなくいろいろな講座があり、大変結構なこと。基礎の部分と応用編のところは全国でもいろいろな流れがある中で、応用編のところでは現場の意向も取り入れているので、これからもこのやり方がよい。

	主な意見
	<ul style="list-style-type: none"> ○ コラボ大賞については、今年からは審査して落とすための事業ではなく、「こういうところをもう少し育てるといいですよ。」そんなメッセージも伝わるようにという話が出た。 ○ コラボして地域を盛り上げていこうという活動は、それを好事例として参考にして、自分たちの地域に合った形で活かしていく。そのためには、自分たちの町の中にあるいいものをうまく組み合わせて発信できるようなアイデアが必要。
退職者向けボランティア活動の普及啓発について	<ul style="list-style-type: none"> ○ チラシについては、ボランティア活動を始めると地域に知り合いが増える、生きがい、やりがいが見つかる、感謝をされる等、何か始めたらこんなにいいことがあるということを前面に押し出したらいい。 ○ 県が、ボランティアのお勧めのような形で投げかけるというのは素晴らしいことだが、お近くのボランティアセンター、支援センター、社協等に相談してみましようという投げかけ、発信だけに考えられるので、もう一歩進めて、県内の市町村の方では、社協に限らず市町村の方でもボランティアしませんかみたいな投げかけはしていると思うので、そことのコラボの形があればもっとよい。 ○ 「始めませんかボランティア」より「始めませんか地域活動」の方がしっくりくる。ボランティアとなると、受ける側と供給する側みたいな差がある。地域活動というと、僕の得意なことをするからあなたも得意なことをやってねと言う感覚。それはボランティアの最初。我々が地域の中でやるべきことは、正に地域ボランティア、地域活動そのもので、そのことをもっと表舞台に出していくと、地域コミュニティは自然に発生するのではないか。 ○ 退職した人のボランティアということで、会社を通してボランティアを募集するのではなく地域から、地域の人づくりのために募集していく。そんな方向性の方が入りやすいのでは。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民活動につながってくるが、今、地域包括ケアシステムの理念のもとに、住み慣れた地域で長く過ごしていくために、地域でのちょっとした困りごとは地域住民で助け合い、支え合っていく。そういう仕組み作りを、全国的に進めていかなければならない。時代の流れとして、共助、互助という仕組み作りにならずにつ動いているのではないか。 ○ 昨年、流山市では支え合い条例ができ、各自治会と連携を持って活動しているが、市と自治会とのいい関係づくりができてよかったと思う反面、個人情報への壁がなかなか厚いというのがネック。 ○ 船橋市では市民協働の指針を改定中だが、お互いが同じ立場で、同じ目的を持ってということと協働だけピックアップされているが、自助と公助の間の共助の部分が協働であり、自助の部分がやはり大切。自助があり、市民の自発的な活動があるからこそ共助や協働が生まれてくる。その市民活動の部分もピックアップしたものにしてほしいと思っている。

